

**留学先国名：イギリス**

**留学先校名：Royal Holloway, University of London**

**専攻：BA Politics and International Relations**

**留学期間：2015年9月～2019年6月**

ファンデーションコースも含め、英国に留学してからかれこれ3年が経ちました。そこで、今回の報告書では、この3年間で得た私なりのエッセイの書き方を4つの段階に分けてご紹介したいと思います。

1. リサーチクエスションの分析。何を聞いているのか、また、何に焦点をおけば効率よく自分の意見を主張できるのか。エッセイの地図を作成します。私は毎週先生に質問に行き、自分の考えや質問を先生とディスカッションをします。そうすることで、自分の中で考えが固まりやすいです。
2. 問題分析。ここが一番時間のかかる段階で、たくさんの資料を読みます。また、そこで得た知識からエッセイの構成がガラリと変わることがよくあります。
3. 意見主張。問題分析をし、他人の主張をまとめるだけではただのまとめになってしまうので、自分の意見を端的に述べるのがとても重要です。
4. エッセイの構成と改良。これは語学力の問題かもしれませんが、言いたいことはあるのに、うまく書けないことが私にはよくあります。段落と段落のつながりが悪くては、主張がいくら良くても、読み手には伝わりません。私は小学生に教科書を読むつもりで、一つ一つわかりやすく説明していくことを心がけています。論文とは、その分野に携わる専門知識を兼ね備えた人のためのものでもあるが、本来はその分野の知識がない一般人にもわかりやすく書いてある、いわゆる「説明書」なのです。故に、わかりやすく、端的に述べるのがとても重要です。私は、違う分野を専攻している友達にも読んでもらい、その都度修正を重ねるようにしています。

海外の大学生にとって、エッセイは避けては通れない道です。焦らず、ゆっくり時間をかけることが重要です。これから留学を考えていらっしゃる高校生の生徒さんに少しでも役に立てれば光栄です。

また、今年は国際関係、人権、民主主義とそして、政治哲学についてのクラスを受講し、5段階のうち上から2つ目の成績を取ることができました。平均をしてまだ最高成績を獲得できていませんが、最終学年となる3年生では取れるように、日々努力したいと思っております。また、勉学の他にも、日英学生会議という日英の大学生が社会問題についてディベートをする団体の運営をし、ジャパン・ソサエティで毎週日本語を教え、模擬国連の大会に参加もし、大学の授業だけでは体験することのできない、貴重な経験を私は積んでおります。

ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校での大学生活も最後の年となりました。

自由の理論、難民と世界政治、中国の台頭についてのクラスを現在受講しております。それにつき、来年4月に卒業論文（戦後の日本の平和主義と反軍国主義について）の提出があります。

授業の他に、模擬国連のソサエティの運営メンバーとして、アカデミックイベントの運営をしております。先日、International Organiation of Migration (IOM)から移民の専門家を呼び、2時間のセミナーを開きました。大学生から教授まで、30人ほどが参加し、イベントは成功に終わりました。

また、日英学生会議のプレジデントとして、来年の夏、広島で開催される会議に向けて様々な準備を行なっております。今年で設立4年目となる日英学生会議は、日本と英国の大学に所属する大学生が集まり、先進国が抱える社会問題についてディベートする場です。今年は Legacy of Hiroshima: Our memories of War というテーマで、戦争と人権、戦争と科学進歩、戦争と環境など、幅広い視点で「戦争」というテーマについて参加者と考えていける会議にしたいと思っております。

大学の授業だけでなく、様々なことに挑戦し続けられることに、恵まれた環境に毎日感謝しながら生活しています。

大学卒業後は英国の大学院に進学予定です。今まで受講したクラスや卒業論文から、興味のある研究テーマが見つけることができました。

これにて中間報告とさせていただきます。